

ささやき 第37号

編集・発行 特定医療法人 明和会 琵琶湖病院
聴覚障害者外来スタッフ
FAX 077-579-5487
TEL 077-578-2023

職業としての対人関係のススメ 琵琶湖病院院長 石田展弥

春なので新しく医療関係の仕事に就いた人たちに助言を送ることにする。

患者さん全体から学ぶ。患者さんから学ぶ。教科書でなく、患者さんとの対人関係の歪みがある原因なので、真の一人前になるには患者さんやその家族から学ぶことを忘れてはならない。米国の医師や患者さんのエッセイを集めた「医者は心を開くとき(医学書)」には、適切な対人関係として、お互いを認め尊重しあうことが最も悪の事態に陥ってもプラスの何かが残るといふ例がたくさん紹介されている。職業として対人関係を意識し、謙虚に患者さんや学ぶ人たちにこそ医療人としての喜びが訪れるようである。患者さんのためにというだけ、でなく医療人自身にとって充実した生活を送るために職業として対人関係を意識することをオススメする。

気がされることがある。医療者患者関係が良好な例では訴訟にならないという希望的観測の



☆本年の四月一日より、琵琶湖病院の新院長に石田展弥が就任致しました。新院長の治療理念は患者さんの主体性を中心としてすべてのことを考えらるゝであり「バイナリズムからの脱却」です。この基本理念の基に、聴覚障害者外来もこの十年間の軌跡を再確認しつつ、新たな出発をする時だと、スタッフ一同心を引き締めている。今春です。業桜に負けないみずみずしい緑を保ちつつ、前に進んでいこうと思っております。

皆様、これからも宜しくお願い致します。

☆院内手話サークルについて
・毎週木曜日1時~30分
相談室において「手話サークル」をしていきます。
全くの初學者の方でも参加出来ます。
たくさんの方の参加をお待ちしています。

mn(---)mn



「ささやき」を読んでくださっているみなさん、こんにちは。私が初めて「手話」に出逢ったのは、もう20年以上も前になります。その時の学友の顔の表情豊かなことが強く印象に残っていました。

ある時電車で、感情豊かな手話をする人たちを目にし、魅きつけられてしまいました。それ以来手話を学ぶ機会が与えられ続け、今に至っています。私は、手話を学び始めてすぐの頃、大好きな手話表現がありました。「一緒に」 という手話です。

「一緒に」など、一緒に何々する...という時に使われるしくお話しします。

「ささやき」編集担当になりました。楽しい記事づくりを目指していきいます。

一年間どうぞ「愛読」の程上しくお話しします。

「お星、何食べる？」
時計の正午十左手を茶碗にして、お母さん指とお見せし、お母さん指を左右に振ります。

「お星、何食べる？」
時計の正午十左手を茶碗にして、お母さん指とお見せし、お母さん指を左右に振ります。

「お星、何食べる？」
時計の正午十左手を茶碗にして、お母さん指とお見せし、お母さん指を左右に振ります。

「お星、何食べる？」
時計の正午十左手を茶碗にして、お母さん指とお見せし、お母さん指を左右に振ります。

「お星、何食べる？」
時計の正午十左手を茶碗にして、お母さん指とお見せし、お母さん指を左右に振ります。



《琵琶湖病院を取材して》
メライカ出版「ナースビズ」
編集部 栗本安洋子

「聴覚障害のある患者さんへの琵琶湖病院の取り組みを取材させていただきました。藤田先生の「厚意で、病棟の患者さんの手話学習会、スタッフの講話勉強会を見学させていただきました。精神科開放病棟看護師長の寺井さん看護師の斉藤さんのお話をうかがいました。

なかでも寺井さんの、スタッフの手話を勉強して初めてある患者さんとコミュニケーションがはかれるようになったというお話はとても興味深い。いかに医療従事者が患者と共通の言葉をもち理解する姿勢をとることが大切かを考えさせられました。

耳が聞こえ、話すことができて、理解し合うことの難しさは医療現場はもちろんです。日常でも感じることで、患者さんに合わせたコミュニケーション。患者さんといふ種別湖病院の取り組みは、すべての患者に対する医療従事者の目指すべき姿勢を示しているのではないのでしょうか。

2年前、手話を勉強する看護師さんを取材し、いつかの病院の聴覚障害者へ、感謝と喜びを感じていま

「症状」
両手のひらを交互に上下させる。

「便秘」
丸めた左手の中へつまんだ右手を指先から入れて少しゆらす。

「病気」
右手拳で軽く額をたたく。

《編集後記》
今年度の編集委員は、新米3人組でがんばります！
皆様、協力をお願いします。

